

【資料3】

第6次長期総合計画策定のための 事業者等ヒアリング調査の結果について

I 調査概要

1 調査目的

経済・産業面における本市の課題や市内で事業活動を行う事業者等のニーズを把握し、角田市第6次長期総合計画の策定に向けた基礎資料とすることを目的とする。

2 調査方法等

【アンケート調査】

調査対象	32社(団体)
調査期間	令和2年12月3日～令和2年12月22日
調査方法	郵送または電子メールで調査票を配付し、郵送、FAX または電子メールで回収
回収結果	回収票 25票 (回収率 78.1%)

【ヒアリング調査】

調査対象	7社(団体)
調査期間	令和2年12月14日～令和2年12月24日
調査方法	郵送または電子メールで事前に調査票を配付し、訪問時に調査票の記載内容等を基に聴取

II 調査結果

1 事業活動における課題と行政に望む支援策について

《問1》

現在、事業所(団体)として抱えている課題(新型コロナウイルス感染症による影響を含む)についてお聞かせください。

《問2》

問1でご回答いただいた課題を解決するにあたり、行政に望む支援策(取組)があれば、ご意見・ご要望などをお聞かせください。

事業所(団体)が抱えている課題としては、新型コロナウイルス感染症の影響による来客数、売上の減少といった意見が最も多く、感染防止対策の負担増や感染者が発生した場合の対応への不安なども挙げられた。行政に対しては、感染症に関する情報の収集・提供の拡充を求める意見が多く、相談体制の確立や市独自の支援を求めるものも見られた。

また、人材不足を課題として挙げる意見も多く、特に若年層の人員確保が困難との意見があり、行政に対し、若い世代の移住支援策等による人口減少の抑制や人材育成支援を求める意見が多く見られた。

■事業所(団体)が抱えている課題の解決にあたり行政に望む支援策(取組)

【全般】

- まちが示す方向性と将来像の明確さは、その地の住民を活かし、またそのビジョンに共感する方々を惹きつける。行政の支援内容の明確性と実効性のある施策が必要と考える。

【防災・減災】

- 令和元年東日本台風の被害により、通勤経路が遮断され影響が大きかったため、道路の嵩上げ工事などの道路インフラ整備の実施を求める。
- 自然災害や感染症のほか、爆破予告等のリスク情報についても企業・事業所にも情報共有していただきたい。(学校等からの情報は、保護者は知り得るが企業の担当者はニュースや市のホームページ等に頼らざるを得ず、対応が遅れることがある。)

【新型コロナウイルス感染症】

- 新型コロナウイルス感染症対策について、国や宮城県の支援に加え、角田市独自の支援があれば事業者にとっても相談の選択肢が増える。

【移住支援】

- 人員の確保が課題となっており、新型コロナウイルス感染症の影響により都市部からの移住希望者が増えているため、移住を促すような情報発信や施策を求める。
- 医療従事者も含めた他地域からの移住者が定住したくなるような環境整備が必要である。

【産業】

- 食と加工のまちとしてのブランディングを推進するための政策の実施を望む。街の個性となるフラッグをたて、旗手となる事業者を育成することが必要である。
- 世代の交代や新しい生産方式への転換がはかられなかったために、次の時代を担う生産者が著しく少ないことが課題であり、またそのことが角田の発信力の低下につながっているため、農業に関心のある人が、農業に取り組めるような体制を作っていかなければならない。
- 従業員の高齢化が進む中で、どのようにして多くの若手技術者や現場作業員を確保し、育成していくかが大きな課題であるため、移住希望者が地元角田の求人情報を知る機会の創出、若手技術者等に対する育成のための優遇制度・表彰制度などの創設が必要。

【教育】

- 角田高校への入学者の減少が続けば、いずれ統廃合により学校がなくなり、若者が地元に戻らず、まちの元気がなくなってしまうという危機感を持ち、学校の魅力を高め、入学者確保に繋がる施策・支援が必要である。

【医療・福祉】

- 高齢化社会が加速し独居老人等が増え、在宅医療の展開において、市の保健師、民生委員、ボランティア等の活動の連携が不可欠であり、市のサポートが重要となる。
- 角田市の医療を支えているのは民間医療機関であり、角田から医療の灯を消さないためにも、民間医療機関への市の人的・経済的支援が不可欠となる。

2 事業活動の拠点としての角田市の「強み」と「弱み」について

《問3》

事業活動を展開する中で、角田市に立地していることの「強み(良い点、活動にプラスとなる点)」や「弱み(悪い点、活動にマイナスとなる点)」があればお聞かせください。

《問4》

問3でご回答いただいた「強み」を活かす、または「弱み」を克服するために、行政が力を入れるべき取組について、ご意見・ご要望などをお聞かせください。

「強み」としては、仙南地域の中心に位置しており、車でのアクセスが良いこと、複数の有数企業や JAXA が立地していることなどが多く挙げられた。これらを活かすための取組として、道路の整備、有数企業従業員の市内への定住促進、企業誘致などが挙げられた。

また、「弱み」としては、少子高齢化・人口減少、人を呼べる観光資源が乏しいこと、公共交通機関の利便性が低いことなどが多く挙げられた。これらを克服するための取組としては、子育て世代が暮らしやすい環境づくり(教育環境の充実、子育て世代への経済的支援、産婦人科・小児科の誘致等)、企業誘致、特産品等の開発、若者を惹きつけるイベント等の企画、通勤・通学に公共交通機関を利用する方への経済的支援などが挙げられた。

■角田市に立地していることの「強み」

【防災・減災】

○大雪や台風の影響を受けたことはあるが、概ね安定して操業できる。

【地域資源】

○JAXA、グライダー滑空場等の個性的な資源がある。

○地理的に鉄道や、幹線道路が通っていないため、比較的田園風景が残されている。東西南北どこから角田に入ってきて、豊かな田園風景が見られることは良いところである。今後、農業を目指す若者を受け入れるとすれば、非常に良い条件であると考えられる。

○スポーツ施設が一つのエリアに集約され、人口が約3万人の地方自治体としては非常に恵まれたスポーツ環境がある。

【交通・アクセス】

○仙台港や仙台空港、高速道路(東北自動車道、仙台東部道路)へのアクセスが良好で、物流面でトラック輸送が中心となるため、比較的優位性がある。

○仙台市を含め、仙南の市町への移動が1時間程度内で可能な立地にある。

○地理的に二市七町の中心地であり、物流や情報のハブ的立地になり得る。

【医療・福祉】

○デイサービス等高齢者をケアする施設が比較的多く、介護サービスが充実している。

○角田市には公立病院がなく、民間医療機関の経営努力により、角田市は他自治体に比べ、財政的に優位性を長年にわたり保ってきた。

【教育】

○同窓生が多く、学校の教育活動に対して理解があり、地域からの協力が得られやすい。

【産業】

○旧角田市農協の長い歴史と実績(「農業は角田に学べ」、みやぎ生協「産直」のさきがけ)

○農業では少量だが、多品種の農産物を生産されている方が多く、バラエティに富んでいる。

○企業同士の横のつながりが強い。

■角田市に立地していることの「弱み」

【全般】

- 平均世帯年収の水準が低い。
- 事業者、住民共にICTが弱いと感じる。
- 市民レベルでの交流が薄いため、新しい事業が生まれにくいと感じる。
- 本来ならば仙南地域の中心なので近隣への司令塔であるべきと思うが、昨今は通過点にしかなくなってない。交流人口にばかり偏り、定住人口を忘れてるように思う。

【防災・減災】

- 阿武隈川に近接しているため、防災面で不安を感じる。

【子育て支援】

- 公園ではなく、飛行機を飛ばしたり、アスレチックをやったりなど、子どもを遊ばせられるような場所が少なく、子どもを遊ばせるために市外に出かけることが多い。子どもの集まる場所に大人も集まる。

【インフラ整備】

- 橋のペンキの剥がれや道路の陥没等、市内インフラのメンテナンスが不十分
- 公共事業が少なすぎる。災害工事は利益率が少な過ぎて手が出せない。

【交通・アクセス】

- マイカー通勤者が多いため、交通渋滞が問題となっている。公共交通機関の整備や角田市の在住者が増えれば、交通渋滞の緩和に繋がると思われる。
- 阿武隈急行線の乗り継ぎ時間が長くアクセスが良くない。県外・海外からの訪問客の多くが仙台に宿泊することが多く、特に電車の不便さは弱みとなる。

【都市計画】

- 駅前が開発が停滞しているように見える。
- 市街地の商業集積が弱く、店舗が分散している点がシナジー効果を生みにくくしている。

【商工業】

- 賑わいのある商業施設がなく買い物で市外に出るケースが多い。
- 新規の誘致企業が来ない。
- 特産品がなく、角田市でしか購入できないというものが少ない。
- 人材確保が難しい。具体的には、仙台市より遠すぎるため仙台在住の技術者をスカウトしても、通勤距離が遠いため断られることが多い。
- 角田市の主たる産業が製造業・建設業に偏っているため、景気悪化時などの振れ幅が大きい。

【観光】

- 観光でPRできるものが少ない。
- 市内及び周辺には視点を変わると地域資源が多数存在するが有効に活用されていない。

【農業】

- 農業振興公社は、当初の目的である農業従事者全体の底上げを果たせていない。
- 農業においては、同年同じ品種で出荷できる生産量に乏しい。
- 行政サイドでは新たな農業の担い手づくりについては、積極的ではない。前政権の消極的な考えが庁舎を支配している。この地域の強みを生かし、他の地域ではやろうとしてもなかなかできない問題に前向きに取り組んでこそ、角田の魅力が高められるはずである。

【教育】

- 地域の子どもの学力の低下
- 教育環境が都市圏(仙台市・名取市他)と比べ悪い。地元に入學せず仙台圏に流出している。

■「強み」を活かす、または「弱み」を克服するために、行政が力を入れるべき取り組み

【防災・減災】

- 防災対策の強化（河川の整備、浸水被害の防止措置）
- 情報網（民間と行政が持っているリスク情報の共有等）の整備
- なぜ冠水が起きたかの総括と主要道路の冠水対策。

【医療・福祉】

- 産婦人科・小児科の誘致。教育環境の充実と高等学校における特進クラス等の新設。地元でも従業員の高齢化や人手不足が進行しているため、就職の斡旋、職業体験、地元企業の需要に沿った技能実習等を市全体で共有し、支援していければ良いと思う。

【子育て支援・教育】

- 子どもの遊び場の整備
- 人口（特に子ども）増加（減少抑制）のために、学校環境の整備・充実、子育て世代の経済的負担の軽減や子育て世代の働く場所を確保するための企業誘致が必要。
- 学力向上のための取り組みの充実

【交通・アクセス】

- 生活の利便性、公共交通機関のアクセス改善、交通の利便性改善
- 4号線バイパスから6号線までの太いパイプラインが必要。
- 人口減少を止めるためにも、仙台圏に通勤・通学できるまちづくりをしてほしい。角田市から通勤・通学する利用者に対する交通費の助成等の支援をしてほしい。

【商工業】

- 大型のショッピングセンターの誘致
- 企業誘致が必要。工業団地が足りていない。事前に準備されていないと、企業が土地を探している場合、すぐに欲しい、造成完了まで待てない。せめて用途地域を見直し、既存工場等が外に広げられるようにする。
- 産業の多様化・多層化が必要である。そのためにも企業誘致・創業支援への取組を強化させ、産業の集積や裾野拡大に積極的に取り組んでほしい。

【移住支援】

- 移住者への住居費の補助、住居の紹介等
- 企業の従業員の多くが、市外の家やアパートに住んでいる。市内に住んでもらえばそれだけで税金等を増やせる。なぜ角田を選ばなかったのか意見を集約すれば不足しているものが見えてくるのでは。

【農業】

- 農林振興課と農業振興公社の役割を明確にし、新しい発想が生まれる組織にする必要がある。
- 自立経営体、担い手、認定農業者の育成。
- 市の大多数を占める個別・家族経営体への支援や果樹・園芸分野への支援等、今後の農業振興策の在り方を検討して欲しい。

【地域資源】

- 道の駅があるので、市内外の方が、もっと交流できる機会を作るようにしてはどうか。
- JAXAとの連携。
- 仙南地域での観光の押上。
- ICTの不足や交流の活性化のためにも、研究機関や大学又はその出張所の設置、若しくはそういった機関との長期的社会実験が可能な土壌が市内にあれば、そのメリットは大きいと思う。チャレンジをするためのインフラを整備する行政のあり方や気概が求められる。

○視点を定めることによる豊富な地域資源のPR、地域資源を結合させる仕組みづくり(人材育成、資金投下)が必要。

【角田市役所】

○行政は難しい問題は、担当者レベルでは考えることをあきらめてしまうことがよくあると思う。何も考えず、なにも勉強せず、情報も自ら求めず、それでは企業であれば、たちどころに倒産である。持てる資源をどう生かすのか、どのような将来を目指すのか、先進的な地域はどのような取り組みをしているのか、情報を集め議論してほしい。農業振興公社などせっかく作った組織を死なせておいて、何か新しいことができるはずがない。難しいことは担当者任せにしない仕事の進め方を見つけてほしい。

○よその役場と比べ、フットワークが欠けている。市役所職員は、やる気・努力が足りない。行政は今までの固定観念から脱却すべき。

3 角田市の将来の都市像について

《問5》 人口減少や少子高齢化がさらに進むことで、今後、角田市の地域全体においてどのようなことが課題になると考えますか。
《問6》 角田市が目指すべき将来の都市像、または将来性(可能性)について、ご意見・ご提案などをお聞かせください。
《問7》 問5でご回答いただいた今後の課題を踏まえ、問6でご回答いただいた都市像を実現する、または将来性(可能性)を活かしていくためには、行政においてどのような取組が必要と考えますか。ご意見・ご要望などをお聞かせください。

人口減少や少子高齢化がさらに進むことで、今後、角田市が直面する地域全体における課題としては、市の財政状況の悪化(税込等の減少)による行政サービスの低下やインフラの維持、労働力不足による企業の撤退、また、それに伴う更なる人口の流出などが多く挙げられた。

また、角田市が目指すべき将来の都市像、または将来性(可能性)としては、若い世代が住みやすい環境づくりに関する意見が多く挙げられた。その他、コンパクトシティの実現、公共交通・産業・教育等の様々な分野において先端技術を取り入れた社会の実現などの意見も複数見られた。

これらを踏まえた上で行政に必要とされる取組としては、企業誘致に関する意見が多く、それに関連して移住支援、子育て支援、教育環境の充実、医療体制の確立など、そこで働く人たちが暮らしやすい環境の整備に関する意見も多く挙げられた。その他、企業との連携(民間資金・ノウハウの活用)、特産品の開発・PR、市職員の意識改革に関する意見なども複数見られた。

■角田市が目指すべき将来の都市像・将来性(可能性)、それらを実現するために行政に必要とされる取り組み

【まちづくり全般】

- あらゆる施設を集約するコンパクトシティ的な発想が必要であり、交通機関の在り方も検討すべき。過疎化・中山間地の在り方の検討が必要。
- 若者を交えた意見交換会を定期的に行き、若者が夢を語り地域で活躍できる街であってほしい。
- 都市機能の無理な追求ではなく、角田らしいライフスタイルの提案があってよいのではない。ゆったりとした住空間や、田園での暮らしは将来的には価値が上がると思われる。そのうえで、先端技術の集積や、頭脳集積をもたらすような企業誘致を進めてはどうか。また、すでに優良企業が進出していることから、将来必要となる、国際的な人材育成機関を置き、日本人と、海外の若者で、日本企業を目指す人が一緒に学ぶ仕組みが作れないかと考える(企業も金を出す)。
- 市民、行政が一体となり、さらに周辺市町との連携・協力による「機動力がありコンパクトでインパクトのあるまち」の構築が必要である。そのために、行政の取り組みのオープン化と、周辺市町との行政及び市民レベルでの交流関係の推進が必要と考える。
- 人口減の中でも支え合える・助け合えるコミュニティの形成。
- 総務省が提唱する「Society5.0」や、国土交通省が提唱する「コンパクトシティ」は参考にするべき点が多いと考える。

【若い世代が暮らしやすいまち】

- 若者が愛着や魅力を感じ、若い世代が惹きつけられるような医療体制(産婦人科・小児科等)や子育て環境、教育環境の充実など、家族が定住を希望する都市・環境づくり
- 若い世代の人が経済的にも安心して生活ができ、子育てもできる都市にするため、市内外を問わず特産物や地域資源をもっとアピールし、若い人の地域離れや、角田市に戻ってきやすく、仕事・育児のできる環境を整えたり、娯楽施設も充実したりしてはどうか。

【商工業・企業誘致】

- 商工業者が創業しやすい環境づくり(創業時の初期投資や場所選定などの課題解決等の仕組みづくり)
- 企業誘致による雇用の確保、高齢者の労働環境の整備
- 企業誘致に積極的に取り組み、働き手の需要の増加、子どもたちの預け場所を確保して、安心して働けるまちづくりが必要ではないか。
- 企業誘致も大事だが、職業訓練も含め、将来を担う人達や若い人達への教育環境が不十分である。レベルが高い学べる場の提供と情報発信が必要。また、企業の需要に則した職業訓練講座・実習、補助制度等があれば、マッチングしやすいのではないか。
- 建設業者の減少を防ぐためにも、今後より一層の工事の発注、施工時期等の平準化を図ってほしい。

【農業】

- 農地利用の在り方、生産ほ場の集約化と再配分等の検討

【地域資源】

- 角田に来なければ体感できないものなど、人が感動するようなものに主眼を置いた地域資源の開発
- 今ある道の駅、阿武隈急行をもっと有効活用することで県南の中心都市になってほしい。

○箱ものではなく、長期的に人が集まるような体験型の目玉があると良いのではないかと。これを成功させるためには、それを運営する人材の育成が必要である。また、交流人口だけではなく、この地で働く人が一定数は必要なため、移住者を呼び込むための取り組み、外部へのアピールがもっと必要である。

【子育て支援・教育】

- 教育にかける予算を大きく増やし、市独自の教育施策を展開。手厚い指導を通して学力の向上を図る。
- 大学または大学の研究所等を誘致し、学力に特化した特徴を打ち出す。
- JAXAの存在を活かし、先進的な研究施設を誘致して学園都市のまちづくりを進めたり、JAXAに関連した研修やセミナーなどに参加したり、そうした取り組みを通じて子どもたちの学力向上にもつなげていく。
- 行政や住民の考え方に「利他」の心がなければ地域に住むための魅力は失われる。「利他」の心は教育の場を通して身につくものであり、教育の現場でも新しいことへの挑戦・向上への意欲や改革への意欲を持った教師が必要である。
- 教育環境の充実を図っていけば、学都「角田」への定住が増えていくと考えられる。
- 学力アップのための徹底した目標数値管理とIT活用。
- 住居、幼児・児童の預かり、就労場所の提供（シングルマザー特区）を行い、他の地域からの人口流入を検討してみてもどうか。

【医療・福祉】

- 医療体制の確立。広域では中核病院を核とした先進医療の確保が必要であり、地域においては、家庭医療の普及啓発による健康の維持増進及び医療と介護福祉が連携し、在宅を含めた安心できる医療福祉体制の確立、子どもを安心して産むことができる周産期医療の確立が必要。

【PPP・PFI】

- 民間は収入を得ることを目的に企業活動をしているため、収入を得る方策が得意であることから、民間の活用も検討すべき。

【交通・アクセス】

- 通勤圏への人口流出、特に子育て世代は学校の統廃合による教育環境悪化や医療機関の充実度合いを比較し近隣地域へ流出する事が予想される。市内の移動（モビリティ）難民（通学、医療機関受診）が課題となりうるため、MaaSの実現の為の実験場にしてはどうか。また、市内大手企業は関連分野が広く、様々な知見を有していると思われ、市と地域の民間企業（JAXAを含む）との連携が課題解決の助力になるのではないかと。

【角田市役所】

- 角田市職員における前例の少ない取組に積極的に取組む意識の醸成。
- 行政手続の省力化や効率化がまだまだ必要。

4 角田市のこれまでの取り組みや今後のまちづくりについて

《問8》

角田市がこれまで行ってきた取組や今後のまちづくり全般について、ご意見・ご要望・ご提案などがあればお聞かせください。

■全般的事項

- 角田市の存在意義のような、総合的で概ね普遍的な角田市のビジョンを定めたいという優先順位を決め取り組んでいくことが重要であり、市民にも施策が伝わるような活動をお願いしたい。(広報の果たす役割を再認識する必要あり。)
- 企業誘致については、物流の条件が誘致のポイントであり、国道4号線クラスの幹線道路へのアクセスが整備されていることが必要。
- 工場誘致やスポーツ振興では成果があがったものの、小規模で中途半端なものが多く、成果があがっているようには見えない。スポーツ施設には空調設備が必須であり、利用者の体調急変に対応できるトレーニングインストラクターの常駐も必要となる。スポーツイベントのメディカル体制も充実させるなど、行政はより高い次元で取り組みを進める必要がある。
- 全国の経常収支比率でワースト3位。限られた予算を上手に使う必要がある。
- 全てが高いレベルで充実すれば理想的だが、リソースが足りているか。角田市の将来像を明確に描き、何に特色を持たせた市にするのか決断する時期にあるのではないか。
- ふるさと納税の制度を活用して、市の収入アップを図る取組は是非継続・拡大すべき。
- 小中高大生、PTA、商工農業青年部にも参画いただき、とにかく若い世代の意見を求めてほしい。
- 行政職員のレベルの向上(若手の勉強不足)。

■地域ブランドの確立やシティプロモーションなど、地域のイメージ戦略について

- 既存のものではなく、新しいブランドづくりが必要
- 米、豆、梅を活用したB級グルメの開発
- 国は脱炭素社会を目指しているので、エネルギー改革(エネルギーの地産地消、エネルギー循環を考える)を進め、スマートコミュニティ、スマートシティを目指す。
- 地域ブランドの「見える化」を図ってほしい。
- 市民に市の取組が伝わっていない部分が多いように感じられる。推進している事業をもう少し分かりやすい言葉で発信されることを期待する。また、HPの更なる改善も必要ではないか。
- 角田市の地域のイメージ戦略には、住民の姿が見えないのが課題であり、現状の施策の見直しが必要。
- 道の駅を通じてメディア露出が増え、シティプロモーションは格段にやりやすくなっている。今後も道の駅と連携しながら情報発信の取り組みを行っていく必要がある。行政施策で「日本初」の取り組みという視座も考えられる。
- ブランディングやプロモーション戦略は、民間のプロフェッショナルと連携して、角田の魅力を一から洗い出すくらいの覚悟で取組んでほしい。角田市の魅力は他地域の住民にはよく伝わっていないと感じており、「住めば都」ではなく「住んでいないが都(に見える)」といった魅力・高めの期待値を喚起する仕掛けが必要である。

■道の駅を中心とした賑わいづくりやその賑わいを地域全体へ波及させるための取組について

- 道の駅は、高速道路を使った集客に一定の効果があり、成功したと感じる。
- ぱびハウス以外のフードコートで提供される食事類の改良が必要。美味しいラーメンは観光地並みの集客力がある。市内で閉店した店舗のメニューを承継(季節限定〇〇店復活プロジェクト)するなど、営業努力が必要。
- 車のない方も道の駅に行きやすいとよい。市内の方が楽しめるものと、市外の方が楽しめるものを考えてはどうか。
- 道の駅に集まった人が街なかに流れる仕組みが確立されていない。ただ、現状角田市の商店街、中心部とはいったいどこなのかも疑問。現在バラバラになっているイベント等も協力・連携ができる仕組みづくりが出来ないか。
- 山元ICからの車の流入を考えていたのであれば、ETC2.0 で元に戻れることを打診してみてもどうか。
- 道の駅で知ってもらった生産者にリピーターが付くよう、一品一品にコンサルティングをかける必要がある。
- そもそも道の駅は賑わいづくりのパーツの一つであり、そのキャパシティを勘案しても、これを賑わいの中心とすることは無理がある。道の駅周辺地域の商業開発も並行して行い、総合的な魅力を高めていくことが賑わいづくりに必要である。

■事業の担い手不足など事業承継にかかる課題への対応、企業誘致や創業希望者への支援など、産業の振興に関する取組について

- 創業希望者には、課題ごとに専門家を派遣し、開業場所の提供も必要。
- 起業に関して、市はもっと積極的に支援すべき。(若い農家を対象にした起業家塾の開催等)
- 企業誘致は大きいですが、市内の空き店舗等を生かした小さなお店づくりや若いクリエイターが活動できる、夢を叶えられるような細かな(現在の起業支援をもっと充実させた)支援に力を入れていけないか。
- 既存工場の拡幅ができるように、工業系用途地域等の見直しが必要。
- 創業から事業継承まで、既存の企業の強化が優先される状況にあると感じている。元気がある企業や特徴的な地元企業があつてこそ、内外から新規創業に角田市で挑戦したい人材が出てくるのではないか。
- 幅広い業種の交流の中で、行政や金融機関も交えながら、角田ならではの新しい地域産業を育てていく取り組みが生まれてくれば、他のことに波及する可能性が出てくる。行政だけで問題の解決は無理なので、行政はおぜん立てや、支援する側に回るべきである。道の駅のように行政がすべて仕切るようなやり方は無理をきたす。
- 自治体運営の継続性を確保するうえで、事業者からの税収強化は必須である。企業誘致は有力な手段であるため、是非事業用地の無償貸与・低廉価格貸与や税優遇、転居してくる従業員の居所提供といった施策を積極的に展開してほしい。(会員制倉庫型卸・小売りチェーンである「コストコ(COSTCO)」の誘致なども面白い。)
- 行政の業務のアウトソーシングで民間の活性化と雇用の場の確保に協力してほしい。

■子育て支援や教育環境など、子どもを産み育てやすい環境づくりに向けた取組について

- 教育に関してはもっと危機感を持って、市独自の取り組みを行い、学力向上により一層取り組むべき。
- 文科省との連携や学力アップのために大胆な政策とコストをかけることが必要。
- 小学校、中学校が子どもの減少により縮小が続く中で、角田高校も生徒が少なくなってきたと聞く。高校に関しては通学のための交通機関の問題があると思うので改善できないか。
- 子どもたちの教育にも角田ならではの取り組みが必要である。地域に誇りを持つ人材の育成なくして、角田の発展はあり得ないため、子どもだけでなく、大人も角田の歴史や、産業、自然について学ぶ機会が必要である。
- 子どもを産み育てやすい環境づくり・定住人口増加に取り組むのであれば、特に病院の充実が不可欠である。例えば、近隣市町村と連携して多くの診療科目が網羅できる医療モールのような施設を自治体主導で準備し、収入面など様々なメリットを付帯させて医療を誘致するなどの取組が必要である。

■健康づくりや地域福祉活動への支援など、全世代が安心して暮らせる福祉社会の形成に向けた取組について

- 角田市周辺の医師は平均年齢が60歳代と高齢化が懸念されており、若返りが必要。
- 周産期医療の確立が必要。
- 安心して暮らせる福祉社会の形成のためには、かつての訪問看護ステーションのような在宅医療や地域医療の担い手が必要。
- ボランティアポイントを創設し、地域福祉活動を支援する。
- 地域全体の健康づくりには、誘致企業やその従業員も巻き込んだ取り組みが必要である。
- 車を運転できなくても、高齢者が暮らせる町になってほしい。
- 角田市はスポーツ施設が充実しており、道の駅に隣接して立地的にも十分利用価値が高いと考える。さらに集客が見込める試合など開催できるプロ等の基準を満たした施設にできればよいのではないか。

■災害に強い防災・減災体制の整備、都市基盤や住環境の整備、地域公共交通の充実など、安全・安心で快適なまちづくりに向けた取組について

- 近年の災害多発を踏まえ、想定外の災害に備える対策立案と発災時に大切な受援力を高めていく努力が求められる。
- 災害に強い防災・減災体制については、主要道路が冠水により通行できなかった今年の台風被害を教訓にするべき。
- 都市基盤はコンパクトにまとめてほしい。
- 「角田市→水害に弱い→危なくて住めない・商売ができない」というイメージはプロモーション上、大きなマイナスとなるので、治水を含めた災害に強いまちづくりへの対応は最優先・喫緊の課題と捉え、早急な対応が必要である。
- 阿武隈川の定期的な土砂の撤去、遊水池等の整備を長い目でやってほしい。
- 最新のハザードマップの作成と住民への周知。
- 行けない場所が避難場所では住民はどうしたら良いか迷うばかり。今一度、足で歩いて、地域を知って、その上で計画を立ててほしい。安心・安全は常に一緒である。